

ずそうじんしゃてつどう 豆相人車鉄道



● れきし 歴史

ずそうじんしゃてつどう げんざい どうかいどうほんせん かいぎょう まえ おだわら あたみ おす
豆相人車鉄道は現在の東海道本線が開業する前、小田原と熱海を結んでい
た、世界のなかでも珍しい人間の力で押す鉄道です。

めいじ ねん (1895年) 7月 かつ あたみ ゆがわらまち よしはまかん えいぎょう かいし
明治28年(1895年)7月に熱海～湯河原町の吉浜間で営業を開始し、

めいじ ねん (1896年) 3月 かつ あたみ おだわらかん かいつう
明治29年(1896年)3月に熱海～小田原間で開通しました。

あたみ ふる おんせん まち し ゆがわら おお どうじ
熱海は古くから温泉の町として知られていて、湯河原にも多くの湯治客(温
泉でキズを治す)や観光客が訪れていましたが、東海道線も熱海を通らず、
こうつう ふべん ばしょ どうじ うみぞ けわ みち ある ふたり
交通が不便な場所でした。当時は海沿いの険しい道を歩くか、かご(2人で
ひとり じんりきしゃ りよう
1人を運ぶ)か人力車を利用するしかありませんでした。



じもと ひと てつどう つく こえ あ
そこで、地元の人たちから「鉄道を作ろう!」という声上がり、

ざいばつ どうじ おお かいしゃ かね か つく かね
財閥(当時の大きな会社)からお金を借り、作るのにあまりお金がかからな

じんしゃてつどう ひと ちから お でんしゃ つく
い人車鉄道(人の力で押す電車)を作りました。

ずそうじんしゃてつどう おだわら あたみ とちゅう えき はやかわ いしほし こめかみ ねぶかわ
豆相人車鉄道は小田原から熱海まで途中9つの駅(早川、石橋、米神、根府川、

え うら まなづる よしはま ゆがわら いずやま とお むす
江の浦、真鶴、吉浜、湯河原、伊豆山)を通りながら結ばれ、25.6km

の距離を約4時間で走りました。(かごでは約6時間、現在の電車では約2

2分、新幹線で約10分)

いまお昔では、かかる時間
が大違いだね!



1車両にお客さんは平均6人、それを2~3人の車夫(鉄道を押す人)が

押していました。6両編成で、1日に約6往復し、一番の難所(通るのが

大変な場所)と言われた真鶴~江の浦間の坂ではお客さんも降りて一緒に

押すのを手伝っていました。運賃は車両によって違いますが、50銭~1

円(現在の価値で約1,500円~3,000円)でした。

その後は1907年に「熱海鉄道」と会社の名前を変え、蒸気機関車が引

張る電車に変えましたが、1923年に発生した関東大震災により大きなダ

メージを受け、廃線(鉄道が無くなること)となりました。

今も多くの観光客が訪れる私たちの地域には、昔から多くの観光客が

訪れていました!

今は電車に乗れば簡単に移動できるけど、当時の人たちはいろいろな苦勞をし

て、移動していました。だからこそ観光が楽しかったのかもしれませんが!

また、いろいろな技術が発達してどんどん便利になっているけど、この鉄道

ができたのは約100年前です。みんなはどう思うでしょうか？

● 地域や、地域の人とのかかわり

この鉄道は運賃が高く、地域の人たちが気軽に乗れる鉄道ではありませんで

した。しかし、昔から温泉地として有名だった熱海や湯河原を訪れる多く

の観光客や湯治客には喜ばれ、「どうにかして鉄道を作ろう！」という当時

の人たちの熱い想いが伝わってきます。

また、当時の天皇や国木田独歩や芥川龍之介、志賀直哉など、日本を代表

する有名な作家（本を書く人）たちも乗車し、その様子が作品に登場して
います。

● 関連するチェックポイント

・新幹線発祥の地・・・現在日本各地で活躍している乗り物です。

・路面電車「小田原市内線モハ202号」・・・豆相人車鉄道と同じように昔

この地域で活躍していた乗り物です。

※この地域の乗り物の歴史を関連付けて知ることができるかもしれません
ね！